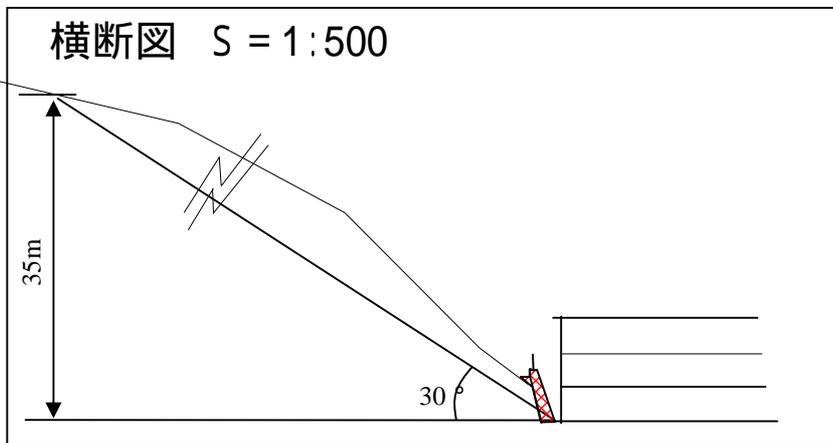
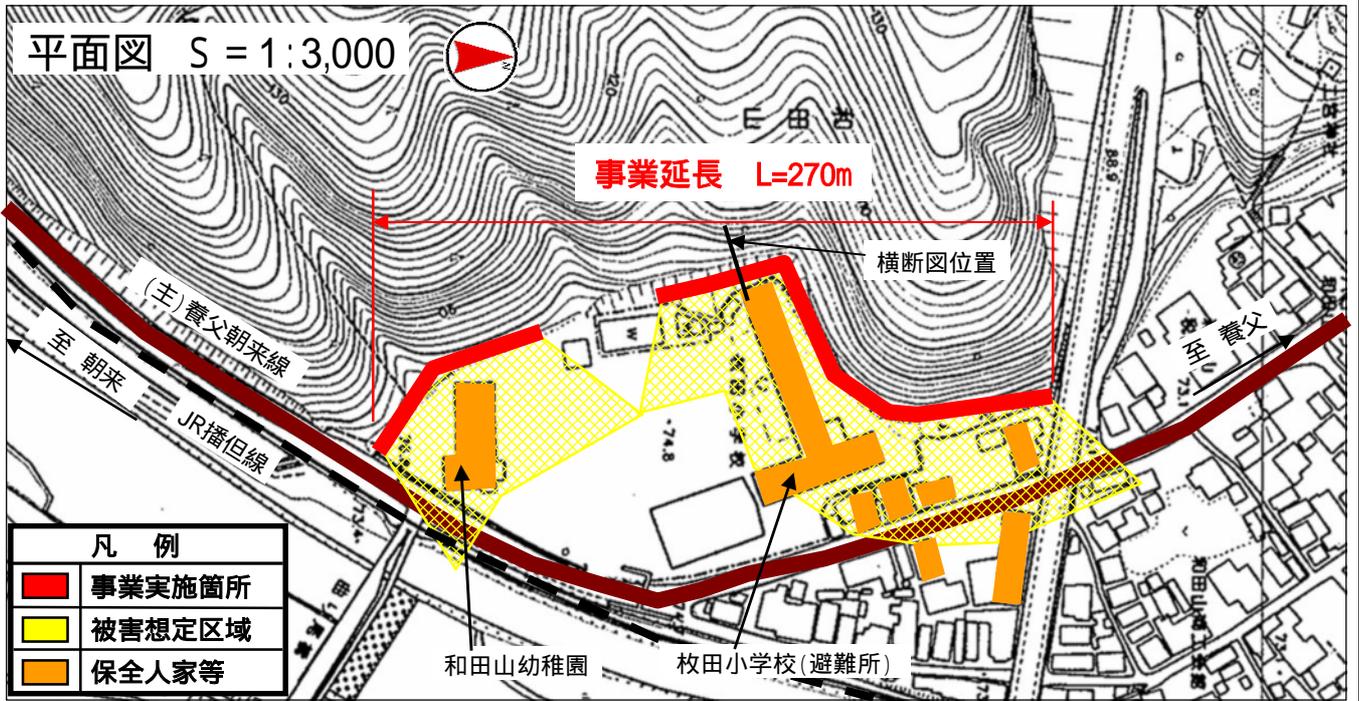
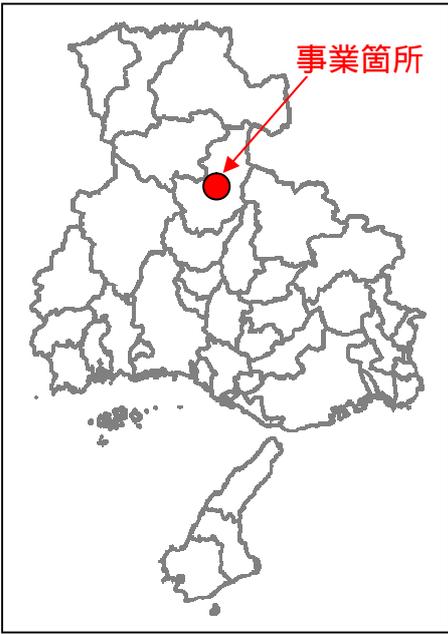


投資事業評価調書（新規）

部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 松本 正利 (鶴崎 尚夫)	内線	4459 (4467)
------	-----	---------------------	-------------------------	----	----------------

事業種目	急傾斜地崩壊 対策事業	事業名	事業区間	総事業費	1.5 億円
		急傾斜地崩壊対策 わだやま 和田山(3)地区	朝来市和田山町 わだやま 和田山	内用地補償費	- 億円
所在地				着工予定 年 度	完成予定 年 度
朝来市和田山町和田山				H 2 3	H 2 5
事業目的			事業内容		
急傾斜地崩壊による災害の防止 当地区は斜面崩壊の危険性が高く、急傾斜地崩壊危険箇所となっている。斜面下部には人家や幼稚園、避難所、県道等があるため、防災工事を行い、地域の安全・安心な暮らしを支える。			急傾斜地崩壊対策事業 擁壁工 L = 270m 〔負担割合 国 : 47.5% 県 : 47.5% 地元 : 5.0%〕		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性 〔地区の状況〕		<ul style="list-style-type: none"> 朝来市役所の南南東約500mに位置する急傾斜地崩壊危険箇所。 斜面は小崩壊跡があり、斜面途中には転石が見られ、斜面下にも落石が見られる。 斜面の荒廃が進んでおり、倒木、崩壊の危険性が非常に高い。 			
〔保全対象等の状況〕		<ul style="list-style-type: none"> 延長270m、幅50mの被害想定区域で、崩壊した場合の影響は大きい。 人家6戸、幼稚園(災害時要援護者施設)、小学校(避難所)、県道養父朝来線(約130m)、JR播但線(約20m) 			
(2)有効性・効率性 〔効果〕		<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に土砂災害警戒区域を指定予定であり、警戒避難体制の整備によりソフト対策が進められる。これに加え更にハード整備により土砂災害対策の充実を図り、地域の安全・安心な暮らしを守る大きな効果がある。 			
〔事業執行環境〕		<ul style="list-style-type: none"> 事業の同意を得ているため借地に問題はない。 工事予定箇所付近には県道があるため、工事中進入路に問題が無いことから円滑な事業執行が可能。 			
(3)環境適合性		<ul style="list-style-type: none"> 斜面の改変を最小限にとどめ、既存斜面の緑を残し、掘削法面の緑化を図るなど環境保全に努める。 			
(4)優先性		<ul style="list-style-type: none"> 保全対象には、災害時要援護者施設である幼稚園や、避難所である小学校があり、早期着手に対する地元要望も強い。 			
以上より、H23年度に事業着手し早急な対策が必要である。					



箇所名 和田山(3)地区